

ユ スフ アル=ハッタ ブ 米国出身の元ユダヤ教徒

:

明:

米国の 格な正 派ユダヤ教徒たちが住む 境で生まれ育ったユ スフは、イスラエルに引っ越してイスラムを します。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 男性](#)

より: ユ スフ アル=ハッタ ブ

日 4 Feb 2014

集日 25 Feb 2014

私は世俗的なユダヤ教徒の家庭で生まれ、18 のときに神への信仰について深く考察することを 意しました。他の大半の人々同 に、私は自分により近い 点から宗教を べ始めました。私の家族はユダヤ教徒で、ユダヤ教学校にも行かされていたため、私は正 派とされるラビ ユダヤ教について べ始めました。

1988年、私はイエシ バ (タルム ド学校) に入り、 的ラビ ユダヤ教の人 差 主 カルトでの旅を 始しました。1991年、私は最初の妻ルナ メル ル (在はカマル アル=ハッタ ブ) と 婚しました。

彼女はモロッコのテトゥアンという街の出身で、バイス ヤコヴという 的ユダヤ教女子学校に通っていました。

1992年には、私たちの 男アブドッラフマ ン (旧名ラハミム コ エン) が生まれました。

アルハムドゥリッラ¹

、彼は当 も今も私の りであり、喜びです。アブドッラフマ ンの 生 、私たちはブルックリン ウィリアムズバ グのサトマル ハシディック コミュニティに住んでいました。そこではありとあらゆる嘘や欺きが横行しており、シナゴ グやイエシ バ 行の口座を通した

金洗、そして地の人々の酷い生状などを目にしてきたため、私の生まれたばかりの息子はこのような人々の周りで育ってほしくはないと 意しました。

その年の半、私たちは野を め、ブルックリンのオ シャン パ クウェイ地域に引っ越ししました。

アルハムドゥリッラ、1994年から1998年にかけて、私たちはさらにハ スィバ、アブドルアズィズ（旧名エズラ）、アブドッラ（旧名オヴァディア）という3人の素晴らしい子供たちに 生まれました。それらの年に私はユダヤ教こそが正しい道なのであるという信を得ようと苦心しましたが、タルムドの全と、「された」を含む、その3つのなる解法を んだことがなかったため、全く理解をすることが出来ませんでした。これこそが、ラビ教カルトのトリックなのです。ラビ教の教典を学び えることは に不可能であるため、ユダヤ教の解 を えるラビたち（シオンの 老たち）に盲 しなくてはなりません。この 期、ラビたちは私たちが彼らの信条に疑念を持ったことに 付き、私たちの新しい友人や雇用者たち等に を取ったりして、私たち家族を付け回しました。ラビたちは常に、あなたがどこへ行くか、 と友人なのかを知らねばならないのです。私たちはラビユダヤ教徒でしたが、ラビたちは非常に厄介な存在になってきていたため、より良い未来のため、私たちは荷物をまとめてパレスチナに移住しました。（大半の欧米人同、当 の私たちはそこがユダヤに 束された地「イスラエル」であると言及するよう洗 されてきました。）

1998年の9月、私たちはガザ（またはユダヤ人不法入植者らが言及する名であるガッシュユカティフ）に到着しました。私の妻は人々の嘘にすぐに幻 し、息子のアブドッラフマンはある日学校から 宅するやいなや、こう言ったのです。「お父さん！ の先生は の毛をきちんと覆っていないし、スカ トの丈は短か ぎるし、ト ラ の授 なんがなく、一日中 んでいるだけだよ！」

マ シャ アッラ

、息子の言っていることは正しかったので、私たちにはお金も もありませんでしたが、近郊のユダヤ人入植地域ネティボット（1948年に占 されたパレスチナの土地）に引っ越ししました。「宗教的政党」のシャスが、すぐに私たちに家の提供と私立校の 介を

してくれたため、子供たちはヘブライ を全く解しない状 から、クラスでトップの成 を
めるまでになりました。ネティボットでの滞在中、私たちはUAE出身のムスリムに出会
い、彼とはそれから2年 に渡って会 のなかでユダヤ教のアキ ダ（信条）についての や、
それをイスラ ム一神 の一部であるタウヒ ド ウル ヒ ヤと比 したりしました。私は、それ
から有名なラビたちの元へ行き、ユダヤ教の信条について したものでしたが、いつも
返ってくるのは なる答えでした。ユダヤ教徒たちは、彼らの神がどこにいるのかにつ
いてすら、教典に典 した答えをすることが出来ないのです。彼らはただ、神はあらゆる
所に遍在する（アウ ズビッラ
）と言います。ある日、私はアラブ人地域のス クに行き、クルア ンの英 を 入ること
にしました。スブハ ナッラ！

私はそれをひとたび手に取ると、再び置くことが出来ませんでした。私がユダヤ人や
ユダヤ教徒たちに して抱いていた が至高なるアッラ によって られており、クルア ンの
最初の3章では、ユダヤ教に する私の疑念が殆どすべて晴らされました。クルア ンはユ
ダヤ人に し、地 から救われるためには真理（イスラ ム）に立ち返るよう、 く促します
。

クルア ンを み えると、私はユダヤ人とそれ以上 わりを持ちたくなくなったため、妻に
ムスリムになることを打ち明けました。アルハムドゥリッラ 、2 には妻もクルア ンを み
、ムスリマになる 意をしたのです！

彼女の には子供たちも きました。その しばらくして、私たちはパレスチナ自治区 エル
サレムに移住し、6年近くを ごしました。

2006年の 在、私たちはモロッコに住んでいます。

アルハムドゥリッラ 、子供たちはヘブライ を忘れ、 在の母 はアラビア になっています
。彼らは皆イスラ ム学校でアラビア を学んでおり、私たちはイスラ ムという祝福を与
えてくれたアッラ フ スブハ ナフ ワ [11](#)に感 しています。

Footnotes:

1

「神にあらゆる えあれ」の意。

2

喜びを表す称 の言 で「アッラ の御意なら何であれ」の意。

3

「私はアッラ のご加 を乞います」の意。

[1]

「称 されるべき至高なる御方」の意。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/561>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。